

宇治市埋蔵文化財発掘調査報告

第57集

2004

宇治市教育委員会

序

宇治市におきましては、国庫補助事業として宇治市内にあります重要遺跡の範囲、内容確認調査を実施しています。近年では、宇治市が「源氏物語のまちづくり」を推進していることから、藤原氏関連遺跡の調査を進めております。その一環として白川金色院跡の調査を、平成15年度からは浄妙寺跡の調査を行っています。また、これとは別に、重要遺跡内における個人住宅や小規模宅地開発に伴う発掘調査も実施しています。

本書は、平成14・15年度に実施した小規模開発に伴う平等院旧境内遺跡と菟道遺跡の発掘調査、試掘確認調査の報告です。

平等院旧境内遺跡は、隣接地において四条宮寛子が建立した多宝塔の基壇を発見しており、それに関連する遺構の存在が予想される地点です。菟道遺跡では、大鳳寺跡とも接する地点であり、菟道遺跡・大鳳寺跡のいずれにも関連する遺構が予想される場所です。発掘調査の詳細は本書に述べられるところではありますが、小規模な調査であったにもかかわらずいずれも重要な成果が得られたものと考えています。

末筆になりましたが、発掘調査の実施にあたり、ご理解とご協力を賜りました開発事業者の方をはじめ、地元町内会の皆さま、また専門的なご教示ご指導を賜りました関係各位に心から謝意を申し上げます。

平成16年3月

宇治市教育委員会
教育長 谷口道夫

例 言

1. 本書は、平成14・15年度宇治市内遺跡群発掘調査事業として実施した発掘調査のうち、個人住宅建設に伴う調査及び試掘確認調査の発掘調査報告である。
2. 本書が収録する遺跡は下記の2遺跡である。

名 称	種 類	時 代	所 在 地	調 査 期 間
平等院旧境内遺跡	寺院・集落	弥生・古墳・平安	宇治市宇治塔川4-1番地	平成14年8月5日 ～9月13日
菟道遺跡	集落	奈良	宇治市菟道東中42番地	平成15年11月4日 ～11月7日

3. 本事業の経費は、文化庁から国宝重要文化財保存整備費補助金としてその1/2を、京都府から文化財緊急保存費補助金としてその1/4の交付を受けた。
4. 本発掘調査事業は下記の体制で実施した。

調査主体者	宇治市教育委員会			
調査責任者	宇治市教育委員会	教育長		谷 口 道 夫
調査担当者	同	歴史資料館	文化財保護係	荒 川 史
		同		浜 中 邦 弘
調査事務局	宇治市教育委員会	参事兼歴史資料館館長		五 艘 雅 孝
	同	歴史資料館	主幹兼文化財保護係長	吉 水 利 明
	同	歴史資料館	館長補佐	岡 井 毅 芳
調査参加者	久保千恵子・志村みどり・西田倫子・黄基玉・奥里子・大原瞳・畑陽子・北澤英子			

5. 本書で使用する座標は、日本測地系（改正前）平面直角座標系Ⅵによる。
6. 本書の執筆はI-4を吹田直子が、その他を荒川が行った。
7. 本書の編集は、宇治市歴史資料館が行い、実務作業を荒川が担当した。



本書に収録した発掘調査地

目 次

I. 平等院旧境内遺跡発掘調査報告	1
1. はじめに	1
2. 既往の調査	3
3. 遺構	4
4. 出土遺物	4
5. まとめ	6
II. 菟道遺跡試掘確認調査報告	7
1. はじめに	7
2. 調査の概要	8
3. まとめ	9
報告書抄録	12

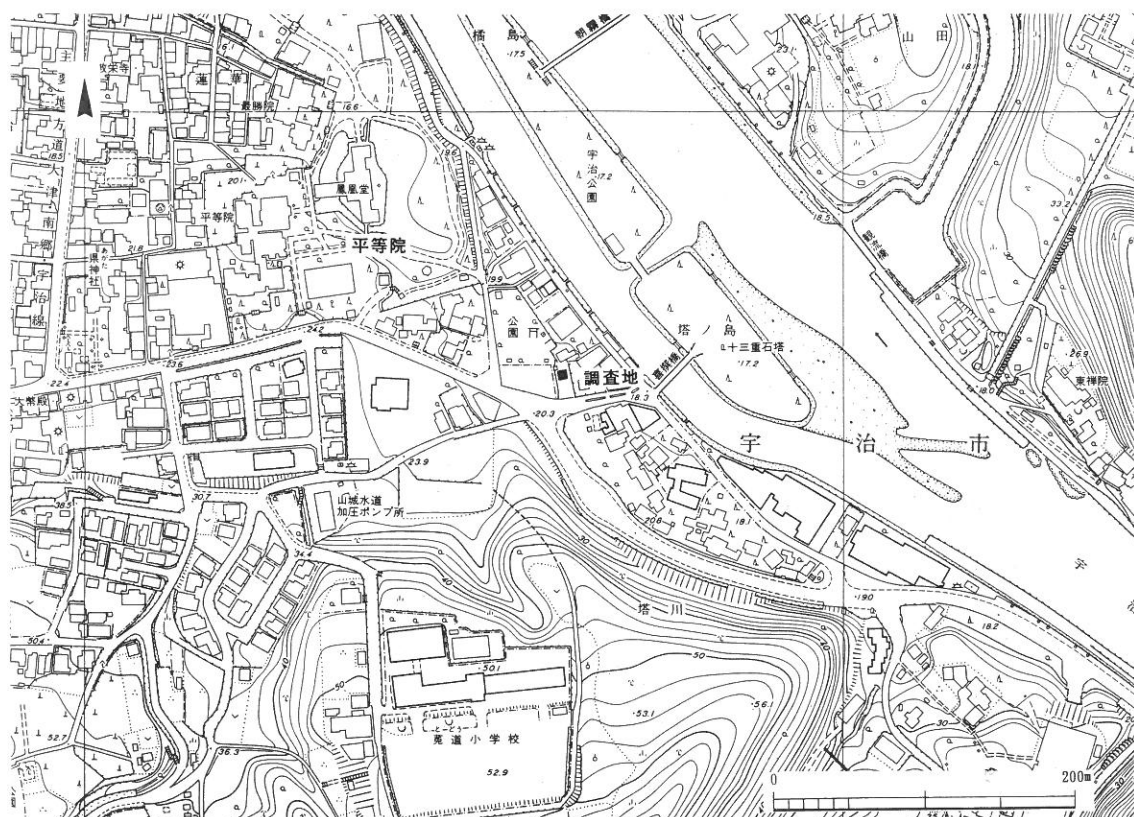
I. 平等院旧境内遺跡発掘調査報告

1. はじめに

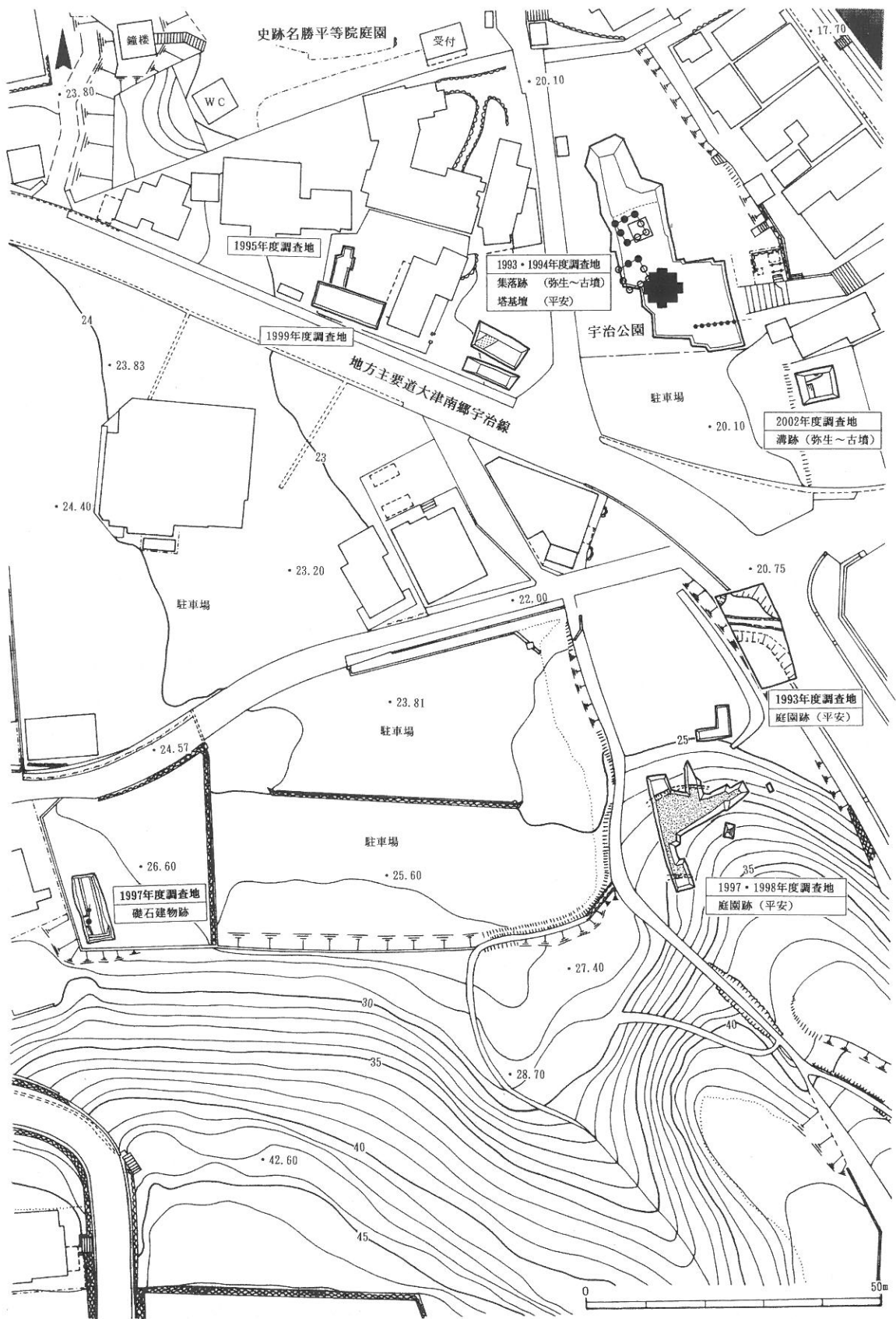
本報告は、個人住宅の建築に伴って平成13年度に実施した、平等院旧境内遺跡における発掘調査の成果報告である。

「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されている平等院は、現在鳳凰堂（阿弥陀堂）とそれを取り巻く庭園、そして観音堂を残すのみとなっているが、平安時代においては数多くの堂塔があり、寺域も現在よりかなり広がったことが文献などから知ることができる。このことは平等院周辺の発掘調査によっても明らかになっており、これまで8次に及ぶ調査で、庭園跡や礎石建物、多宝塔跡が検出されている。また、鳳凰堂背後の段丘上には、縄文時代から古墳時代の住居跡や土器などが確認されており、塔ノ川遺跡として周知されている。今回の調査地は、平成5・6年度に確認された多宝塔基壇の南東約30mの地点にあたる。

建築予定建物は、地下室を作る計画となっていたため、地下室部分の発掘調査を実施することとなった。調査は平成14年8月5日から9日まで行い、調査面積は40m²である。



第1図 平等院旧境内遺跡発掘調査地位置図



第2図 平等院旧境内遺跡発掘調査地点図

2. 既往の調査

平等院旧境内遺跡では、前述したとおり過去8次の調査が行われている。以下各調査の概要を述べる。

1991年度調査 集合住宅建築に伴い、平等院北大門推定地の北東で実施した。平等院に関連する遺構は検出しなかったが、近世の町屋跡を検出した。

1993年度調査 府道大津南郷宇治線の新設に伴い、本調査地の南方で実施した。この調査では塔ノ川の谷地形を利用した遣水状の水路と洲浜状の池岸を検出し、水路からは多量の瓦が出土した。このことから調査地付近に寺坊のような建物があり、それに付属する庭園と考えられた。

1993・1994年度調査 府立宇治公園都市公園施設整備事業の一環として、公園内の埋蔵文化財を整備事業に反映させるために、本調査地の北西で実施した。一辺5.5mの方形基壇を検出し、その北側には砂敷きの道路状遺構や地鎮を行った際に置かれたと思われる土器溜まりを検出した。遺構の位置や土器溜まりの土器の時期などから、康平4年(1061)に藤原寛子が建てた多宝塔基壇と考えられた。またその下層からは古墳時代前期の竪穴住居を検出し、縄文時代の土器などが出土した。このことによって、段丘上に縄文時代から古墳時代の遺跡があることが明らかになり、塔ノ川遺跡と名付けた。なお、現在宇治公園内には、この調査成果を受けて、基壇が復元整備されている。

1995年度調査 住宅建設に伴い実施した。多宝塔を検出した第3・4次調査地から西に約50mの地点である。鳳凰堂南側の段丘上には、前述した多宝塔をはじめ、経蔵や法華堂などの諸堂の存在が推定されており、何らかの建物跡の検出が予想されたが、顕著な遺構は検出していない。

1997・1998年度調査 平等院南方の丘陵部において、宅地造成に伴い実施した。調査地は2ヶ所に分かれており、西方のトレンチでは礎石建物の一部を検出した。東方のトレンチでは平安時代の庭園跡を検出した。この庭園は、小規模な谷筋を利用して礫を敷いたもので、ここからは土器や瓦、木球などの木製品が出土している。平等院南方の山裾には、『宇治大納言物語』を著した源隆国の住した南泉坊があったとされ、この庭園跡は南泉坊に付属するものと推測した。

1999年度調査 平等院の南側にある府道大津南郷宇治線の拡幅に伴って、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターが調査を行った。全部で4ヶ所の調査区を設定して調査し、平安時代から鎌倉時代初期までの瓦が多量に出土した土壌などを検出した。また下層では、縄文時代や弥生時代のピットを検出した。

3. 遺 構

調査は、地下室の建設予定箇所に東西約6.5m、南北約5.7mのトレンチを設定した。これは実際の地下室の大きさよりやや小さいが、敷地境界線との関係で掘削を控えたためである。

基本的な層序は（第3図）、①層厚約40cmの現代の盛土、②旧表土、③層厚約40cmの黄褐色砂礫層がありその下層に層厚約20cmの⑥灰色シルト層がある。この層からは近世陶磁器類が出土している。第3図④・⑤は近世の以降の遺構と考えられる。⑥層の下層には層厚約25cmの⑦茶褐色砂質土層があるが、ここからは遺物が出土していないため、時期等は不明である。この⑦層の下層には、褐色砂質土層があり、遺構はこの層の上面で確認した。

検出した遺構は、調査面積が狭いことと、遺構がトレンチ外に続いているため全容を明確にしがたいが、検出長2.9m、検出最大幅1.3m、深さ約0.2mを測る溝状の遺構（SX01）と思われる。遺構内からは、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての土師器が出土している。このことから多宝塔調査地の下層で検出した塔ノ川遺跡の竪穴住居に関連するものであろう。

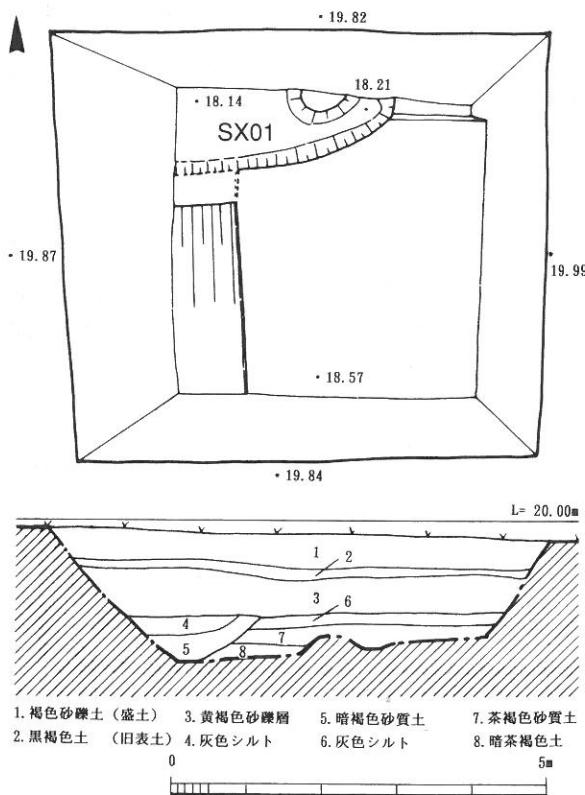
この古墳時代のSX01の下層には、黒褐色砂質土層が認められたが、この層はSX01の南側で急激に南に向かって落ち込む様相を呈している。このことから調査地南側は崖状に落ち込む地形であったことが考えられる。

なお、落ち込み部の黒褐色砂質土層の上層は、灰色砂質土層が堆積しているが、この層から平安後期から鎌倉時代の瓦と土師器が出土している。

4. 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は整理箱に約1/2箱の量がある。種類は弥生土器、土師器、土製品や瓦類がある。時代は、概ね弥生時代から古墳時代および平安時代のもので占められ、江戸時代のものが少量ある。なお今回、図化可能なものはほぼ掲載した。以下に概要を述べる。

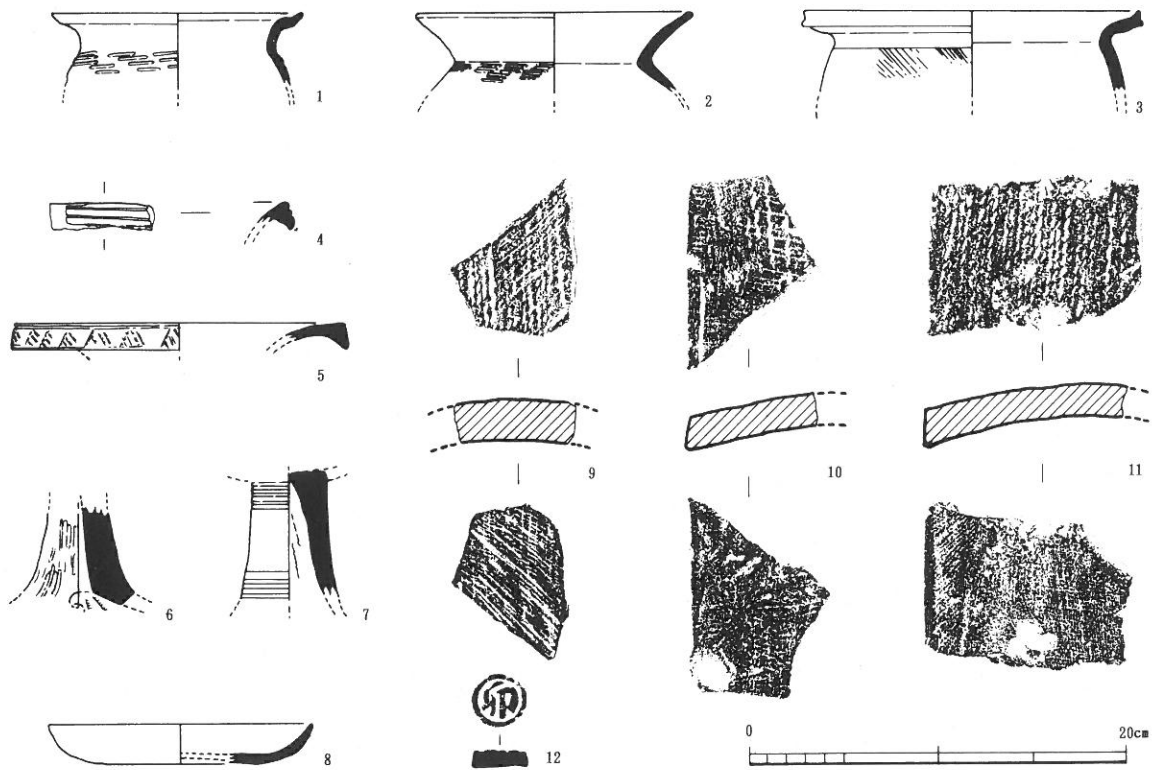
1は体部外面には粗いタタキが施



第3図 トレンチ平面図・北壁土層断面図



第4図 トレンチ掘り上げ状態



第5図 出土遺物実測図

されている第V様式系甕である。弥生時代後期から古墳時代初頭。2は体部外面タタキが細かく口縁端部をつまんで内傾させる特徴から庄内甕あるいは布留傾向甕を模したものと考えられるが、器壁は3.5cmと比較的厚い。内面調整は摩滅で不明。古墳時代初頭。3の甕外面には粗いハケが端部近くまで密に施されている。内面はナデ。口縁は水平気味に外反し端部には強いヨコナデが施されている。弥生時代中期から後期。4は器台口縁部、5は器台もしくは広口壺口縁部である。いずれも弥生時代後期。6・7は高杯脚部である。6の軸部は芯棒状道具に粘土塊を巻いて成形して脚部を付加しており、内面はていねいにナデ調整されている。7の軸部は粘土板を円筒状に丸めて成形しており、内面には絞り痕が残る。外面には7条を1単位とする直線文が2か所に施されている。また頂部には針穴程度の刺突が貫通している。いずれも弥生時代後期から古墳時代初頭。なお1～4・7はSX01から、5・6は北辺断割り内から出土している。

8は土師器皿である。摩滅著しい。灰色砂質土出土。9～11は平瓦である。凸面に縄叩き痕、凹面に布目痕をもつ。いずれも平安時代後期から鎌倉時代のもので灰色砂質土から出土している。12は泥面子である。灰色シルト出土。

5. ま と め

今回の調査では、平等院に関わる遺構は検出しなかったが、それ以前の塔ノ川遺跡に関連する古墳時代前期の遺構を検出した。調査前の段階では、東側の宇治川の方に落ち込む段丘崖の存在を予想したが、予想に反して南側に落ち込む谷地形であることがわかった。この谷は、1993年度調査で検出した塔ノ川の開析谷と一連のものと思われる。

塔ノ川は、平安時代の段階に付け替えられている可能性も考えられるが、現状から見ると川の南岸には平坦地がほとんどなく、遺跡が南方に広がることは考えがたい。このことから今回の調査は、塔ノ川遺跡の南東限を確認したものと言える。

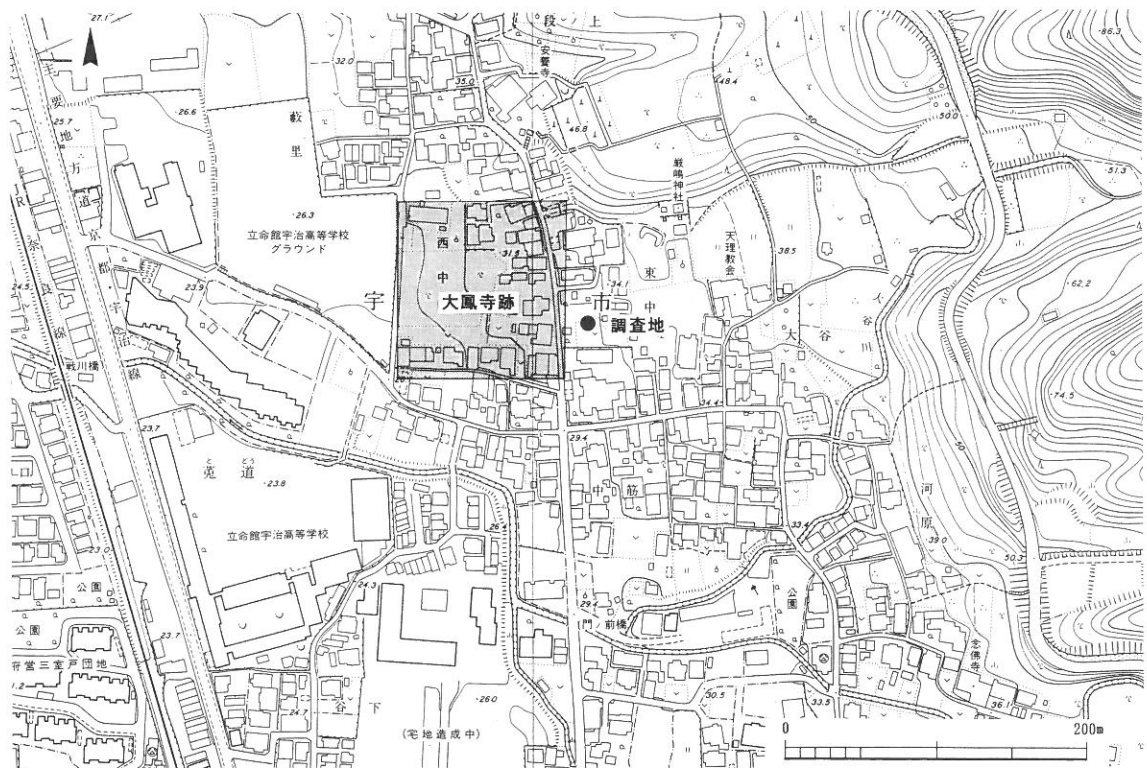
Ⅱ. 菟道遺跡試掘確認調査報告

1. はじめに

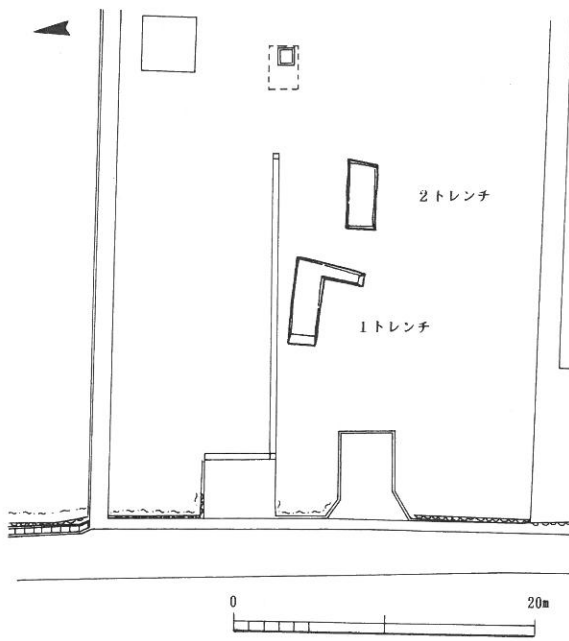
本報告は、宇治市菟道東中42番地において実施した、宅地造成に伴う菟道遺跡の試掘確認調査の報告である。

菟道遺跡のある宇治川東岸の菟道地区は、古くから二子山古墳や大鳳寺跡などが知られ、この周辺に宇治川東岸域の中核的な集落の存在が予想されていたが、本格的な発掘調査が行われず、その実態は明らかでなかった。しかし平成6・7年度に、集合住宅建設に伴う大規模な発掘調査が相次いで行われ、これまで知られていなかった古墳時代後期の前方後円墳（門ノ前古墳）が発見され、さらに古墳時代中期から平安時代の集落や横穴式石室墳・中世墓などを検出し、各時代を通して重要な遺跡であることが明らかとなった。

本調査地は菟道遺跡の北部に位置し、調査地の西には大鳳寺跡に接する地点で、当初から何らかの遺構の存在が予想されたが、原因者との協議の中で、発掘調査に膨大な費用と期間に係る場合開発事業を断念することもあるとのことであったため、国庫補助事業として試掘確認調査を行った。調査は平成15年11月4日から7日まで行い、調査面積は22m²である。



第6図 菟道遺跡調査地位置図



第7図 トレンチ配置図

2. 調査の概要

調査は開発計画における道路部分に2 m×5 mトレンチを2ヶ所設定して行った。ここでは西側のトレンチを1トレンチ、東側のトレンチを2トレンチとして記述を進めていく。

1トレンチでは、標高約31.3mの地点で大鳳寺跡の調査で整地層としている暗褐色混礫土に類似する層を検出した^{註1)}。このためこの面で精査を行ったところ、土色の変化が認められ、当初これを溝跡の北半部と考えたためトレンチの西

端の一部を南に拡張し、溝の幅の確認に努めた。その結果、土色の変化は溝跡ではなく、ピットや整地土中の土質の違いによるものであることが明らかとなったが、ピット5基と土壇状の遺構1基を検出した。遺構の掘削を行っていないため、時期や性格は不明であるが、遺



第8図 調査地の状況（東から）

構面の上層から須恵器が出土している。

2トレンチでは、標高約31.65mで整地層と思われる土層を検出したが、1トレンチより検出面が高く、また土色はやや灰色がかり、礫も少ない。

2トレンチで検出した遺構には、土壇・ピット、石組みなどがあるが、ここからは江戸時代前期の土師器の皿や陶磁器類が出土している。

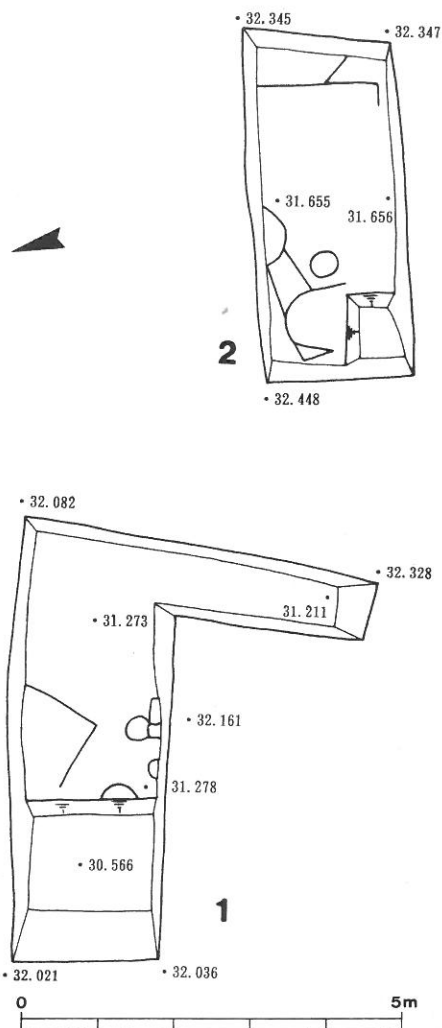
今回の調査で出土した遺物には、土師器・須恵器・陶磁器類・瓦がある。1は2トレンチから出土した土師器の皿である。口縁部にススが付着しており、灯明皿として使用されていたものである。口径9cm。17世紀前半のものと考えられる。2は京焼系の灯明皿である。内面に灰色の釉を施し、外面は露胎である。1トレンチからの出土。3は森田勉分類の白磁皿E群の菊皿^{註2)}である。1トレンチ出土。4は信楽焼の播鉢である。2トレンチ出土。

このほか図示できなかったものに、須恵器と瓦がある。須恵器は壺の体部と思われる破片である。1トレンチ出土。瓦は、凹面に布目痕のある丸瓦片である。表土中から出土。

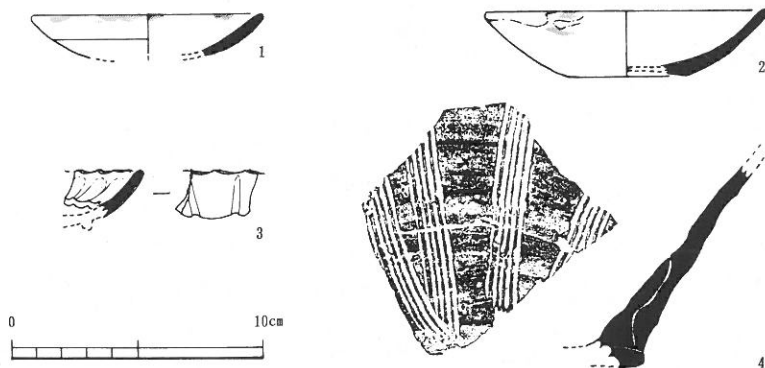
3. ま と め

今回の調査では、試掘確認調査であるため遺構の掘削は行っていない。このため遺構の時期等不明な点が多いが、

整地層の状況や須恵器・瓦の存在から、1トレンチについては大鳳寺跡に関連する時期のものである可能性が高い。しかし2トレンチについては、整地の状況や、遺構埋土などが1トレンチとは異



第9図 遺構検出状況



第10図 出土遺物実測図



第11図 1トレンチ (東から)



第12図 2トレンチ (西から)

なる様相を呈しているため、整地時期が異なるか、近世の段階に改変されていることも考えられた。

この試掘調査の成果を受けて原因者との協議を行ったところ、本発掘調査を実施することとなり、平成16年1月に調査を実施した。調査の詳細は別途報告するが、その結果、大鳳寺跡の東限を示す溝を検出し、大鳳寺の四至がほぼ確定された。2トレンチの部分については、近世の屋敷による土地の改変が行われており、近世以前の遺構は検出しなかった。

(註)

註1) 『大鳳寺跡発掘調査報告』『宇治市文化財調査報告』第1冊 1987 宇治市教育委員会

註2) 森田勉「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 1982

報告書抄録

ふりがな	うじしまいぞうぶんかざいはくつちょうさほうこく							
書名	宇治市埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	第57集							
編著者名	荒川 史・吹田直子							
編集機関	宇治市歴史資料館							
所在地	〒611-0023 京都府宇治市折居台1-1 0774-39-9260							
発行年月日	西暦2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
びょう とう いん 平等院 きゅうけいけいせい 旧境内遺跡	キョウトフウジン 京都府宇治市 ウジトウカワ 宇治塔川4-1	26204	114	34度 53分 6秒	135度 48分 43秒	20020805 } 20020913	40	個人住宅 建設
と どう い せき 菟道遺跡	キョウトフウジン 京都府宇治市 トドウヒガシナカ 菟道東中42	26204	144	34度 53分 53秒	135度 48分 52秒	20031104 } 20031107	22	宅地造成
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平等院 旧境内遺跡	寺院・ 集落	弥生・古墳・平安	溝状遺構	弥生土器・土師器・ 瓦・泥面子・陶磁器				
菟道遺跡	集落	奈良	土壇・ピット	土師器・須恵器・ 瓦・陶磁器		試掘確認調査		

宇治市埋蔵文化財発掘調査報告 第57集

発行日 平成16年3月31日

発行 宇治市歴史資料館
〒611-0023 京都府宇治市折居台1-1
TEL 0774-39-9260
FAX 0774-39-9261

印刷 (有)ヤマシロプリンティング
